



「みんなありがとう！自分にもありがとう！」

from 新栄小学校

本校では、毎年、親子ふれあい行事の一環として、芸術鑑賞会を開催しています。優れた芸術を鑑賞することにより、子どもたちの豊かな心を育てることをねらいとしています。

本年度は、六月十八日(月)に「劇団うりんこ」による「学校ウサギをつかまえる」を鑑賞しました。

物語は、ある日の放課後、四年生の子どもたちが工事現場にウサギが駆け込むところを目撃したところから始まりま

す。学校で飼っている最後の一匹のウサギに違いないと考えた子どもたちは、力を合わせてウサギを救出しようと

様々な作戦を考えます。しかし、ゲームの世界とは違って、生きたウサギをつかまえるためには汗もかくし服も汚れるし、チームワー

クや瞬間の判断力・行動力が必要です。たまたま起きたささやかな事件

の中、教室の中とは違う顔のクラスメイトに驚いたり、見直したり、焦る子ども

たちの気持ちはやがて一つになっていきます。ピンチをチャンスに変えていく子どもたちの姿はとてドラマチックなものでした。



見ている子どもたちも、すっかり登場人物の一員となつてウサギをつかまえようと、共に喜んだり悩んだり、楽しみながらも真剣に見ることができました。

おもしろさだけでなく、誰かと一緒に夢中で何かを成し遂げたときに感じる「みんなありがとう」という気持ちは忘れられない宝物であるというメッセージが、子どもたちの心にしっかりと残つたようです。

観劇後、子どもたちからは、「歌や踊りがあつたり、舞台がまわつたりしておもしろかった」「みんなのアイデアと努力でウサギがつかま

えられてよかった」などの感想を聞くことができました。また、親子で観劇

を楽しんだことで、家庭で語り合い、心のつながりをより深めるものとなった

ことと思えます。

私の航空史

岡野允俊

扇風機からエアコンへ

戦前、金持ちの家にはGE社か明電舎の黒い扇風機があつた。この種の扇風機のない家庭での避暑方法はうちわだけであつた。下町の夏姿といえば浴衣を着た若い女性が縁側でうちわを片手に夕涼みをしている姿が浮かぶ。もう少しハイカラな家だと応接間で例の黒い扇風機がゆっくり回っている様が浮かぶ。こういった冷房機器はなくとも、山寺の庫裡のすだれの奥で昼寝をすれば、周りの樹木から出る炭酸ガスの冷気が、機械的な風による冷気とは違う天然の冷気を放ち、そしてシャヤシャヤと鳴く蟬の合唱がマッチして結構涼しく感じる雰囲気である。「心頭滅却すれば火もまた涼し」か。

扇風機など冷房機器の世話になつたのは、昭和三十五年位からであろうか。そのあと夜半に外部の冷気を取り込むウインド・ファンなるものを使つたが、びっくりするようない効果もなかった。そんなことならいっそ窓を網戸にして、夜半も開放しておいた方

が涼しかった。昭和五十年代は我が家にも扇風機がゴロゴロしていたが、五十八年にエアコンを導入した。たしか三十万円もしたがそれ程、効率のよいものでもなく、その後も使っていたが最新型の機器でも二十八度に調整し、この五十八年型で二十六度に調整しておいても最新型の二十八度の方が涼しいから不思議なものである。どんなエアコンでも二十八度に設定すれば二十八度になるものと思つていたが、その機器によつて多少感じ方が違うのであろうか。平成二年にも応接間に導入した。これが結構効率がよい。後の二台はインバーター方式なので電力も上手く調節してくれる。利口になつたものである。会社の史料室(旧三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所史料室)の十畳ほどの私の部屋にも、最新型のエアコンが設置され快適に過ごしていた。仕事がかじるはずである。六十歳を過ぎると血圧が上がつたのか、やたらと暑く感じるようになった。それともエアコンに慣れてしまつたのか。一昔前のような、クーラーのない環境ではとても仕事ができないうか。三十五度から三十七度の外気温にも負けずに汗水流して頑張つた当時の苦しみをすっかり忘れてしまつた。